

報道関係者各位

令和 7 年 9 月 17 日
山梨県人口減少危機対策本部事務局
次長 河合 秀樹
電話 055-223-1845 (内線 1101)

「山梨県人口ビジョン 2.0 ～やまなし^{みらいこうかいず}未来幸甲斐図 2025～」の策定について

山梨県ではこのたび、人口減少の現実と将来像を明らかにし、県民と危機感を共有することを目的として、「山梨県人口ビジョン 2.0 ～やまなし未来幸甲斐図 2025～」を策定・公表しました。

本ビジョンは、県民アンケートや統計分析の結果に加え、国立社会保障・人口問題研究所の推計をもとに県独自のシナリオを設定し、今後の人口減少がもたらす影響を具体的に示しています。

なお、本ビジョンの全文は、**山梨県公式ホームページに掲載しています**ので、ぜひご覧ください。

URL: https://www.pref.yamanashi.jp/jinko-chosa/jinkou_vision.html

1 ビジョンの概要

2100 年には県人口が 18 万～30 万人にまで縮小する見通しを数字で明示し、人口減少が進んだ先に生じ得る生活・産業・行政基盤の揺らぎを「ディストピア」として描きました。あわせて、雇用や住環境の改善により結婚や子育ての希望が実現可能であることも示し、「危機」と「希望」の両面を提示した点が特徴です。

2 策定の経緯

本ビジョンの策定にあたり、令和 7 年 8 月に県民を対象としたパブリックコメントを実施し、寄せられた意見を踏まえて内容を加筆・修正しました。これにより、県民の声を反映した現実的かつ共有可能な将来像として取りまとめています。

3 今後の展開

- 本ビジョンは、特定の施策を直接指示するものではなく、県の各部局が政策を立案する際の指針とするとともに、市町村や企業、県民と共有していくものです。
- 人口減少を「自分には関係ない問題」ではなく、自分事として受け止め、意識や行動の変化につなげていただくことが、公表の大きな意義です。
- 危機感と希望を同時に提示することで、持続可能な地域社会の構築に向けた行動変容を促していきます。

山梨県人口ビジョン【概要版】

～やまなし 未来幸甲斐図 2025～

【人口ビジョンの位置づけ】

一人ひとりの未来が幸せにあふれるふさと「甲斐」に至るための「羅針盤」として、人口減少の危機突破を図る上での共有ツールとするもの

令和7年9月17日 人口減少危機対策本部事務局

第1章 本県における人口を取り巻く現状

1 総人口

- 総人口は2000年にピークに達した後、減少傾向となり、2023年には43年ぶりに80万人を割り込んだ。

2 年齢区分人口

- 年少人口及び生産年齢人口の減少と老年人口の増加が顕著で、少子高齢化が急速に進んでいる。

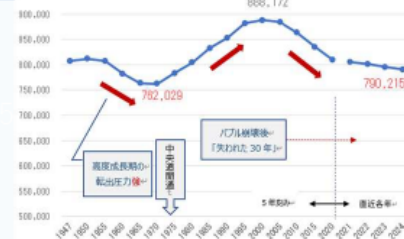
3 人口構造

- 1980年から2020年にかけて、若年層が多い「三角形」から高齢者が多い「逆三角形」へと変化した。

4 自然増減と社会増減

- 自然増減は、2003年に「自然減」へ転換した後、減少幅が年々拡大している。
- 社会増減は、特に就職期の若年世代の顕著な転出超過が続いている。

総人口の推移



本県の人口構造の変化



第2章 人口の将来推計

1 人口の将来推計

- 総人口を3パターンで推計したところ、2100年には、18万人から30万人程度となる。

2 推計による人口構成比

- 高齢化率は、2020年の30.8%から2080年に42.5%まで上昇し、その後は同水準で推移する。

【推計条件】

パターン①：社人研推計準拠型シナリオ

2050年までの社人研推計に準拠し、各指標がその後も一定で推移すると仮定して推計

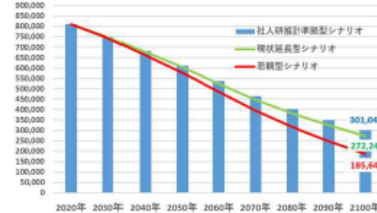
パターン②：現状延長型シナリオ

現在の合計特殊出生率が今後も一定で推移すると仮定して推計

パターン③：悲観型シナリオ

直近の下落率(3%程度)が続くと仮定し、以降も低下が長期的に積み重なるとして推計

県総人口3パターン推計



第3章 人口減少が地域の未来に与える影響

人口減少がもたらす“静かな崩壊”

人口減少は単なる統計の変化ではなく、日常生活・地域経済・行政運営に深刻な打撃を与え、社会システムの維持が困難となる「ディストピア」を招きかねない。

このまま何も手を打たなければ、暮らしの選択肢と公共の機能がシワジワと失われ、やがて地域そのものが消えていく危機に直面してしまう。

1 生活の崩壊

- スーパー・コンビニの7割超が閉店、買い物・通学も困難に
- 空き家だらけの街並み、消防や地域行事も消滅寸前

2 産業の崩壊

- 果樹やワインなど山梨の誇る産業も後継者難で衰退
- 働く場が失われ、若者の流出と経済の空洞化が進行

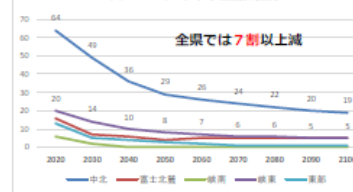
3 行政の崩壊

- 税収減と高齢化で財政が逼迫、公共サービスが縮小・停止
- 救急・福祉の人手不足、行政はAI無人化へと代替

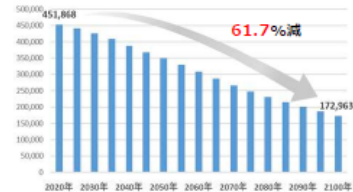
4 ディストピアの果てに

- 医療・交通・買い物などの生活基盤が限定化
- 墓や神社も放置、「帰るふさと」が地図から消える

スーパーマーケット店舗数推計



労働力人口の将来推計



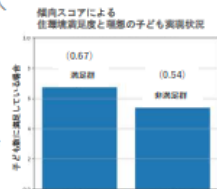
第4章 県民が未来のやまなしへ望む姿

1 県民の声<県民アンケート調査結果&ワークショップ・分析結果から>

- ①「結婚したいけど、将来の暮らしに不安があって踏み出せない」- 正社員のほうが結婚意向は1.6倍高い
- ②「子供は2人以上ほしいが、現実1.4人」- 第3子出産は経済的・年齢的制約が大
- ③「制度はあるのに使えない」- 育児支援制度の利用率は小規模企業で55%にとどまる
- ④「住まいの狭さと物価が壁」- 住環境満足層のほうが理想どおりの子どもを実現。

2 紐解かれる「未来のやまなし」～調査から見えるあるべき将来像～

- ① 安心して雇用と多様な働き方が広がり、結婚や子育てに踏み出せる社会
- ② 時間・健康に配慮した職場環境が整い、出産とキャリアが両立できる社会
- ③ 子育て支援制度が企業規模にかかわらず活用され、働き続けることを後押しする社会
- ④ ゆとりある住まいと生活環境が整い、「子育てしたい or 暮らしたい」と思える社会



第5章 暮らし続けられる「ふさと山梨」の将来ビジョン

1 目指すべき将来像

「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」を目指して、「ふるさと強靱化（自由な選択の制約要因の除去）」及び「開の国づくり（多彩で豊かな選択肢の提供）」を柱に、県民総参加・総活躍の下で取り組む。

2 「存続する山梨」のビジョン～将来像を描く3つの視点～

【地域経済】のすがた

- 若者が「がんばれば報われる」経済社会が確立
- 産業に長期的・安定的な成長性がビルトイン
- 多様な働き方・働く場所の選択肢が充実

【地域社会】のすがた

- 多様性が尊重される共生社会が確立
- 価値観の共存と融合が集合知をもたらすイノベーションな社会に高度化
- 孤独・孤立に悩まない温かいコミュニティが成立

【地域生活】のすがた

- 子育て世代が豊かな生活環境を享受
- 高速交通と地域の公共交通網が充実
- 水素の社会実装の進展と持続可能な地域エネルギーサイクルの確立

3 選択する未来へ

